

川 根 本 町

2025年11月号

図 書 室 だ よ り 11月

- ・文化会館図書室(小長井)
 - ・山村開発センター図書室(上長尾)
 - ・移動図書館車やまびこ号:川根本町内6コース
- TEL:0547-59-3106(文化会館)
TEL:0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間:午前9時~午後5時
- ☆ 休室日:月曜日・第3日曜日(16日)
祝日の翌日(4日・25日)
- ☆ やまびこ号巡回6コース

かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。



新着 図書



「川根本町インターネット図書室」では
新刊の詳しい情報や 蔵書の検索が可能です。



川根本町
インターネット
図書室
ホームページ

あえて立ちどまり
ゆっくりと読む



文

齋藤孝 著
SBクリエイティブ

老化を楽しむ方法!



文

和田秀樹 著
興陽館

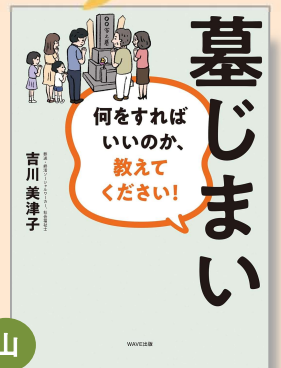
京都を
歩いて楽しむ!



山

昭文社
昭文社

マンガと図で
見てわかる!



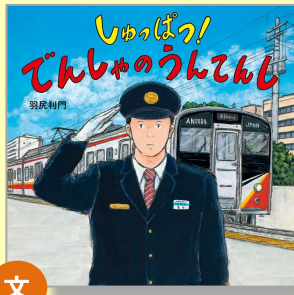
山

吉川美津子 著
WAVE出版



文

国土社編集部
国土社



文

羽尻利門 作
金の星社



山

鈴木のりたけ 作
PHP研究所



山

ポケモン 著
きのしたちひろ イラスト
小学館

◎ 新着図書

「川根本町インターネット図書室」では新刊の詳しい情報や蔵書の検索が可能です。

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
<p>● 『明日の幽霊は踊らない』 赤川次郎 著 集英社</p> <p>バブル時代に大流行したくディスコ)。当時楽しんだ世代を中心に、再び流行(はや)っているらしく、ツアー計画のために下見に訪れた藍。そこで、昔の大事故にかかわる幽霊が出る!? という噂を聞き.....表題作ほか、全6話。人気シリーズ第13巻!</p>	<p>● 『天下の値段 享保のデリバティブ』 門井慶喜 著 文藝春秋</p> <p>時は江戸時代、天下の台所——大坂堂島には全国から米が集まり、日々、値が付けられ膨大な取引がされていた。特に盛んだったのが、先々の米価を扱う先物取引(デリバティブ)。商人たちは紙と筆と頭脳を用い、利鞘の多寡で泣いたり笑ったり。</p>
<p>● 『酒亭DARKNESS』 恩田陸 著 文藝春秋</p> <p>全国各地の酒場の片隅でふと語られる、ちょっと不思議で不穏な話。酒を片手にした謎解きの果てに見えてくるものとは—。著者が全国の居酒屋からインスパイアされた「居酒屋ホラー」13編+α!</p>	<p>● 『まろ丸伊勢参り』 畠中恵 著 KADOKAWA</p> <p>両替商の三男坊・九郎の姪の結に、大坂の店の跡取りになる養子話が舞い込む。なぜか伊勢まで結を連れて来て欲しいと言われ、九郎は仔犬のまろ丸をお供に、結を伊勢まで送り届けることに...</p>
<p>● 『本でした』 又吉直樹 著 ヨシタケシンスケ著 ポプラ社</p> <p>村はずれに2人の男が住みつきました。2人はたった1行のヒントからでも「元の本」を復元できるといいます。村人たちが「本の復元依頼シート」をポストに投函すると...。又吉直樹とヨシタケシンスケからの「創作」のバトル。</p>	<p>● 『追憶の鑑定人』 岩井圭也 著 KADOKAWA</p> <p>元科捜研トップの鑑定技術力と知識をもつ土門誠。民間鑑定人となった土門のもとに、大学教授の猪狩愛が訪れる。彼女は土門の過去を知る数少ない友人のひとりだが、研究中に起きた大学内での火事で記憶を失ってしまう。そればかりか放火の疑いをかけられ.....。旧友を信じたい思いと、科学的事実の間で揺れる土門が導き出した答えとは?</p>
<p>● 『飛博』 楡周平 著 祥伝社</p> <p>その日暮らしのしがない中年・上田安治は、テキ屋の元締めだった亡父から違法賭博用の「レース鳩」を相続するが...。巨額飛び交う違法ギャンブル。元締めのマフィアが闇ビジネスを拡大させる、真の狙いとは——? 賭け続けるしか、勝ちはない。仁義なき賭博小説!</p>	<p>● 『汚名』 和田はつ子 著 PHP研究所</p> <p>佐賀の貧しい農家に生まれた伊東玄朴は、シーボルトの弟子になり、江戸で医者として開業する。玄朴は、当時猛威を振るっていた天然痘に立ち向かうため、種痘所の設立を決意。権力者の横槍、漢方医たちの妨害、家族の冷たい目と逆境の中、出世と金にしか興味がない男との悪評を浴びつつも、彼が貫いた決意とは。</p>

おすすめ図書

『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』

くさばよしみ 編 汐文社

貧乏とは、少ししか持っていないことではなく、無限に欲があり、いくらあっても満足しないこと



山村開発センター
図書室所蔵

大統領在任中も農場での生活を続け、給料の殆どを寄付。そのつつましい生活ぶりから「世界一貧しい大統領」と呼ばれ、国民から親しまれてきたウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領が、今年5月、89歳で亡くなりました。2012年の国際会議での大量消費社会を鋭く批判したスピーチは有名で、各国で翻訳されました。

ある人は物をたくさん作って売り、そのもうけたお金で欲しい物を買ひ、さらにもっと手に入れようとする。ある人は働いて物を買ひ使い捨てに。またある人は、買った物のローンを払い続けて人生が終わっていく...

最期の時、人は何を思うのでしょうか。たくさんの物に囲まれて幸せだったと思うのか、それとも大切な人たちと素晴らしい時間を過ごせて幸せだったと思うのか、あるいは...。本当の幸せっていったい...。

図書室スタッフH